

令和 7 年 第 27 回

沼津市二十歳の議会会議録

令和 7 年 1 月 12 日 開会

令和 7 年 1 月 12 日 閉会

沼 津 市
沼津市教育委員会

令和7年(第27回)沼津市二十歳の議会 議員名簿

	校 区	氏 名	ふりがな	性別	質問内容 等
1	第一	植松 幹太	うえまつ かんた	男	
2	第二	前田 鮎里	まえだ あゆり	女	
3	第三	原 桃香	はら ももか	女	学校と地域の繋がりについて
4	第四	佐藤 泰政	さとう よしまさ	男	
5	第五	新井 智晴	あらい ともはる	男	沼津市のUターン就業支援について
6	門池	齋藤 亜弓	さいとう あゆみ	女	
7	金岡	百津 翔郁人	ももづ かいと	男	市民スポーツの推進について
8	大岡	渡邊 爽羽	わたなべ さわ	女	※欠席
9	愛鷹	植松 湧太郎	うえまつ ゆうたろう	男	
10	片浜	高橋 美帆	たかはし みほ	女	
11	今沢	田村 健豊	たむら けんと	男	
12	大平	寺尾 航士郎	てらお こうしろう	男	
13	静浦	西山 敏哉	にしやま としや	男	※欠席
14	長井崎	相磯 凜太郎	あいそ りんたろう	男	
15	原	川口 諒	かわぐち まこと	男	
16	浮島	堀池 うらら	ほりいけ うらら	女	
17	戸田	池田 来輝	いけだ らいき	男	議長
18	市立	神戸 志織	かんべ しおり	女	
19	暁秀	矢尾 夏大	やお ななと	男	
20	公募	伊海 祈	いかい いのり	女	
21	公募	原科 悠	はらしな ゆう	男	

二十歳の一言 テーマ:わたしにとっての沼津の宝

令和7年（第27回）沼津市二十歳の議会 議場出席者名簿

	職 名	氏 名
1	市 長	頼 重 秀 一
2	副市長	吉澤 勇一郎
3	副市長	塚 本 秀 綱
4	教育長	奥 村 篤
5	総務部長	杉 山 康
6	政策推進部長	山 田 晃 良
7	財務部長	秋 山 幸 宏
8	市民福祉部長	瀧 口 真 一
9	産業振興部長	岡 田 卓 治
10	生活環境部長	加 藤 忠 彦
11	都市計画部長	福 岡 知 己
12	沼津駅周辺整備部長	橋 本 大 介
13	建設部長	杉 山 泰 彦
14	水道部長	土 屋 剛 彦
15	市立病院事務局長	佐 藤 高 志
16	監査委員事務局長	久保田 弘行
17	教育次長	金 子 昭 人
18	危機管理監	沼 上 義 文
19	福祉事務所長	小 林 孝 子

令和7年（第27回）沼津市二十歳の議会 会期日程

日数	月 日	曜日	開議時刻	区 分	内 容
1	1月12日	日	14時	本会議	開会、会期の決定、一般質問 二十歳の一言、閉会

令和7年(第27回)沼津市二十歳の議会 議事日程(第1日)

令和7年1月12日(日曜日) 14時 開 会

第1 会 期 の 決 定

第2 一 般 質 問

第3 二 十 歳 の 一 言

令和7年（第27回）二十歳の議会 質問通告一覧

令和7年1月12日

順番	氏 名	要 旨	答弁者
1	7 番 ももづ か い と 百津 翔郁人	1 市民スポーツの推進について	市長
2	5 番 あらい ともはる 新井 智晴	1 沼津市のUターン就業支援について	市長
3	3 番 はら もも か 原 桃香	1 学校と地域の繋がりについて	教育長

令和7年（第27回）沼津市二十歳の議会会議録

令和7年1月12日（日曜日）午後2時 開会
於 議 場

○会議

○議長（池田 来輝）

ただいまから、令和7年第27回沼津市二十歳の議会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

この際、諸般の報告をいたします。

当局から、自己紹介を求められておりますので、二十歳の議会議員への自己紹介を許可いたします。

○当局

当局出席者が、各自、自己紹介

○議長（池田 来輝）

以上で諸般の報告を終わります。

○議長（池田 来輝）

本日の議事日程は、お手元に配付してございますので、ご了承願います。

○議長（池田 来輝）

日程に入ります。

日程第1、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。

本二十歳の議会の会期は、お手元に配付してございます日程表のとおり、本日1日限りといたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

ご異議なしと認めます。

よって、本二十歳の議会の会期は、本日1日限りと決定いたしました。

○議長（池田 来輝）

次に、日程第2、一般質問を行います。発言の通告がありますので、順次発言を許します。

○議長（池田 来輝）

7番 百津 翔郁人 議員。

○7番議員（百津 翔郁人）

沼津市の市民スポーツについて質問させていただきます。

近年、少子化に伴い地域のスポーツのクラブチームに参加する人が減っています。チームが統合・廃止されることもあり、市内のクラブチーム数も減少傾向にあります。

人口減少社会を背景とした競技人口の減少、競争力の低下は、クラブチームに限らず市民スポーツ全体に言えることであり、市民のスポーツに対する興味、関心が薄れて、スポーツをする機会や競技の選択肢がなくなってしまう可能性があります。

私自身、クラブチームに加入していた者として、親しんできたスポーツが衰退していくのは悲しいことですし、このような現状によって、スポーツをする機会が失われるということは避けるべきであると思っています。

現在、沼津市では、市民総スポーツの目標を掲げて、スポーツの普及と競技力の向上に努める「沼津市スポーツ祭」などのイベントを定期的に開催し、市民スポーツの活性化を図っていると伺いました。

各スポーツの競技人口を増やし、競争力を維持するためには、このような市民が日常的にスポーツに触れられる環境を整えていくことが大切だと考えます。

そこで、お尋ねいたします。

市民スポーツの推進について、現状を踏まえた上で今後の方針をお聞かせください。

○市長（頼重 秀一）

百津議員からスポーツに関するご質問をいただきました。

スポーツは、多様な側面を持ち、大きな力を秘めています。市民の皆さんが日常的に取り組むスポーツは、健康維持や体力向上に寄与するだけでなく、「する」ひとの親睦や交流を深める役割も果たしてくれます。

また、記録や勝負を競う競技スポーツは、「みる」ひとに感動や勇気、夢を与えるとともに、沼津市にゆかりのある選手やチームが活躍することで、競技種目に対する関心の度合いも高まると共に、市民の皆さんに地域への誇りや愛着をもたらします。

さらに、多くの人々がスポーツ観戦を目的に沼津市を訪れることで、観光交流人口が拡大し、地域経済の活性化にもつながります。

このように、スポーツは地域全体を活性化させる大きな力を持っていることから、本市では「スポーツを活かしたまちづくり」に積極的に取り組んでおります。

特にフェンシングにおいては、2019年2月に、日本フェンシング協会と日本初となる包括連携

協定の締結を行い、それ以降、「フェンシングのまち沼津」としてのブランド確立を目指し、官民が連携して、学校訪問事業や各種体験会の実施を通じた競技の普及・振興、シンボルフェンサーの育成などに取り組んでおります。

また、令和3年に開設したフェンシング拠点施設「F 3 B A S E」における日本代表チーム等の合宿誘致、香陵アリーナでの国内最高峰の「全日本フェンシング選手権大会」の開催など、フェンシングを通じた交流人口の拡大にも努めております。

ご記憶にも新しいと思いますが、今年の「パリ 2024 オリンピック・パラリンピック」では、本市で合宿を行った選手が5つのメダルを獲得する快挙を成し遂げました。

また、車いすラグビーでは、本市出身の若山 英史選手が金メダルを獲得され、市民の皆さんと一緒に喜びを分かち合うとともに、私自身も市長として大変誇らしく感じているところであります。

こうした取組状況も踏まえた上で、百津議員からご質問のありました市民スポーツの推進についてお答えいたします。

まず、市民スポーツの現状ですが、令和4年度に実施した市民アンケートでは、約8割の市民が「運動不足」を感じており、約2割は1年間に一度もスポーツをしていない結果となり、特に、女性、高齢者、子供たちのスポーツ実施率が低い傾向が見られました。

また、約7割の市民が「気軽に参加できる環境があればスポーツイベントに参加したい」と回答しており、百津議員のご指摘にもあるように、よりスポーツに触れられる環境整備が重要なものとなっているところであります。

こうした背景を踏まえ、本市では、令和6年度から令和15年度までの10年間を計画期間とする「沼津市スポーツ推進基本計画」を策定し、「With Sports City 沼津～スポーツとともにある暮らしをもっと豊かに～」を基本理念に掲げ、すべての市民が、日常的にスポーツを楽しむことができる環境の実現に向けて、取り組んでいるところです。

具体的な取組として、二十歳の議会議員の皆さんも、過去に参加されたことがあるかもしれませんが、「沼津市スポーツ祭」をはじめ、まち別のソフトボール大会やバレーボール大会、「千本浜ファミリーマラソン大会」、「沼津市駅伝競走大会」など、様々な競技イベントを開催し、多くの市民の皆さんに参加をいただいております。

スポーツ施設としては、令和5年3月にオープンした香陵アリーナにおいて、運動不足解消や健康づくりの場として、日常的なトレーニングをはじめ、卓球、弓道など、個人利用として月平均で約1万人もの方々にご利用いただいております。

また、施設のメイン会場となるスポーツアリーナでは、バスケットボール、バレーボールなどのクラブ活動や、気の合うサークル仲間の皆さんによる団体利用のほか、小中学生を対象とした市・県レベルの大会から、バスケットボールBリーグ・ベルテックス静岡、バレーボールSVリーグ・東レアローズ静岡などの、プロチームの公式戦も開催されています。

プロスポーツにつきましては、「トップアスリート教室」として、現役選手から子供たちが直接指導を受けることのできる貴重な機会を提供することで、子供たちの技術の向上や、新たな才能の発掘、競技人口や試合の観戦者拡大を図っております。

また、地域スポーツにつきましては、市内小中学校の体育館やグラウンドを、住民の皆さんに開

放するとともに、地区センターでは、たくさんの仲間とふれあいながら健康・体力づくりができる、ヨガや体操といった地域体力づくり教室を開催するなど、女性や高齢者のスポーツへの参加、健康づくりへの機会を提供しております。

加えて、近年、人気の高まりを見せているモルックやファミリーバドミントンといった、年齢や体力差に関係なく、誰もが楽しめるニュースポーツや、オリンピックの正式種目に採用され、若者に人気のアーバンスポーツの普及にも取り組んでおります。

ニュースポーツにつきましては、各地域で指導者研修会や体験教室が開催されるとともに、来月23日には、香陵アリーナにおいて、ファミリーバドミントンを種目としたニュースポーツ大会の開催が予定されております。

アーバンスポーツにつきましては、昨年度、学園通りの市有地に「ストリートスポーツパーク」を開設いたしました。

3×3バスケットボールやスケートボードを気軽に楽しめる施設として、学校帰りの高校生等を中心に、多くの若者に利用されており、中心市街地に新たな賑わいが生まれております。

今後も、市民の皆さんが日常的にスポーツを楽しむことができるよう、本日お集まりの皆さんのような若い方々の意見を大いに取り入れながら、スポーツを「する・みる・ささえる」といった多様な形で、スポーツに触れ、楽しめる環境づくりに努めてまいります。

○議長（池田 来輝）

5番 新井 智晴 議員。

○5番議員（新井 智晴）

沼津市のUターン就業支援について質問いたします。

沼津市では近くに大学が少ないことから、多くの大学生が市外、県外へと進学し、そのまま市外、県外に就職するものと思われます。

実際、令和3年3月に発表された「沼津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」をみますと、全体としては就業の担い手となる世代が転入超過であるものの、大学の進学先として多い、浜松や静岡、県外で言えば、東京を中心とする首都圏に対して転出超過となっており、県外や市外に流出した優秀な人材が戻ってきているとは考えづらいというのが現状です。

このような現状に対して、現在、沼津市でも、市外や県外へと進学した学生たちが沼津に戻り、働くという、すなわちUターン就業を促す政策として奨学金支援事業があるということを伺いました。

沼津市の優秀な人材が市外に流出しているのは大変惜しいことであり、このような学生たちが沼津市に戻り、活躍することは、沼津市の発展に間違いなく重要な役割を果たすものと思われます。

そこで質問いたします。

Uターン就業支援の現状を踏まえた上で、今後の方針をお聞かせください。

○市長（頼重 秀一）

新井議員からご質問いただきました、沼津市のUターン就業支援についてお答えいたします。

本市では、「都市的魅力と自分らしい生活を楽しめる“ぬまづ暮らし”の実現」を、将来のまちの姿として提示しております。その実現に向けて、「第2期沼津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、4つの基本目標の1つとして「力強い産業を育て魅力ある雇用を創出する」を掲げ、その具体的な取組として、市内の企業の魅力を発信し、若年者の就労支援や学生の地元企業への就職誘導に努め、人材を求めている企業の安定した雇用の確保を図り、力強い産業を牽引するまちづくりを進めております。

そうした中、本市の企業への就職活動の支援といたしましては、学生の市内への雇用機会を創出するため、学生と地元企業とのマッチングイベント「ぬま job フェア」を定期的を開催しています。このフェアには、毎回、約50社の企業が参加しており、企業担当者から、パンフレットでは分からない詳細な情報を直接聞くことのできる絶好な機会ですので、学生の皆さんは、ぜひ参加をしていただければと思います。また、一人でも多くの方が、市内の企業に魅力を感じ、就職先として選択していただけるよう、地元企業が、大学等に出向き、直接、学生に対し、仕事の内容はもとより、休暇や福利厚生等、企業活動全般をPRする「学内就職説明会」も開催しております。

学生の皆さんにとって就職は人生の大きな転機であり、就職活動において、不安や疑問、悩みなどを抱かれます。そうした不安や疑問を解消し、充実した就職活動ができるよう、個々のスキルや要望等を踏まえ、専門の相談員が、一人ひとりに寄り添った伴走支援を行う「キャリアデザイン相談センター」の運営を行っております。令和5年度においては、当センターを約150人の方が利用され、そのうち約30人が希望企業への就職を果たしております。このほか、近年、インターネットを活用した就職活動が主流となる中、本市では、企業約500社、求職者約1,500人に登録いただいている、沼津しごと応援サイト「ぬま job」を運営しております。「ぬま job」では、市内企業の採用情報の発信のほか、市内企業と求職者とが、サイト上で直接相互に連絡ができる環境を整えておりますので、少しでも関心を持たれた企業がありましたら、ぜひ、当サイトを活用し、企業へ連絡していただければと思います。

次に、就業に伴う経済的な支援といたしましては、新井議員からもご紹介いただきました、「沼津市奨学金返還支援制度」ですが、地域産業を担う人材の確保を図るため、奨学金の貸与を受けていた新卒の大学生等が市内の中小企業等に就職し、市内に居住した場合、年間24万円、最長5年間（最大120万円）支援するもので、これまでに17の方に支援を実施しております。

さらに、「沼津市就職学生支援交通費補助金」として、東京圏とされる東京都、神奈川県、千葉県及び埼玉県の大学を卒業した学生の市内への移住を伴う県内就職を支援するため、東京圏に在学・在住している大学生が県内に所在する企業への就職活動に要した交通費の一部を補助するなど、学生の就職活動の支援に取り組んでいるところです。

今後につきましても、学生の皆さんと企業とのマッチングの機会の提供や、地元就職への相談体制の充実に努めてまいります。また、国や県と連携し、地元就職につながる、有益でタイムリーな情報を提供していくなど、学生に寄り添った、地元企業へのUターン就業支援に努めてまいります。

○議長（池田 来輝）

3 番 原 桃香 議員。

○3 番議員（原 桃香）

学校と地域の繋がりについて質問させていただきます。

現在、私は大学で教育心理学という分野を専攻しています。そこで子供の心の発達やそれに影響を与える周りの環境について学び、教育において学校と地域の関わりは欠かせないものであると強く感じました。また沼津市教育基本構想では、『地域総がかりで取り組む教育』という基本方針が掲げられており、学校と地域の繋がりを絶やささないような工夫がされているという印象を受けました。

近年 SNS がより若い世代にも広まり、人と関わる上で新たな選択肢が生まれた一方、それに付随する問題も多く挙げられてきました。私は、価値観や思考が偏りやすい環境に置かれた子供たちにとっては、年代も考え方も異なる人たちと深く関わるという経験は貴重なものであると思います。

学校と地域との繋がりや、そのような刺激を相互に与えられるものではないでしょうか。そしてこれからの子育てを担う世代である私たちも、このことを認識し理解する必要があると考えています。

そこで質問いたします。

現在沼津市で進められている、学校と地域を繋ぐ活動は今後どのように展開されていくのでしょうか。また、最終的な教育目標についてもお聞かせください。

○教育長（奥村 篤）

原議員からの質問であります、学校と地域をつなぐ活動についてお答えします。

近年、子供たちを取り巻く環境は、少子高齢化や核家族化、価値観の多様化、グローバル化の進展など、社会的背景によって大きく変化しております。

さらに、地域における人とのつながりや支え合いが希薄化する中、沼津の未来を担う子供たちが新しい時代を生きていく上で求められる資質や能力を身に付けていくためには、学校だけではなく、地域との幅広いつながりが重要であり、「地域総がかり」で子供たちの学びや成長を支えていくことが必要です。

そのため、本市では、どのような子供たちを育て、どのような教育に取り組むのかという目標やビジョンを、学校と地域が共有し、一体となって子供たちを育み学校運営に取り組む、「コミュニティ・スクール」を順次導入し、令和5年度にすべての中学校区に学校運営協議会と地域学校協働本部を設置いたしました。

学校運営協議会では、学校と地域が情報を共有し、これからの時代を生きていく子供に必要なことなどを一緒に考え、また、主に地域住民で構成された地域学校協働本部では、学校への支援活動をコーディネートする役割を担っております。

現在、主な支援活動としましては、ゲストティーチャーとして授業の補助や登下校の見守り、放課後の学習支援などを行っております。

こうした取組により、地域の方々にとっては、子供と関わることの楽しさや喜びを改めて実感できて、学校と子供への愛着が深まります。また、子供たちにとっては、地域住民による郷土学習や地域行事への参加などを通じて、地域との結びつきや地域への関心が高まるなど、「地域が学びを育て、学びが地域を育てる」という双方向の関係が築けているものと感じております。

原議員のご質問のとおり、学校と地域の関係は欠かせないものであります。今後も、より具体的な目標やビジョンを学校と地域が共有し、持続可能で効果的な活動となるよう学校運営協議会と地域学校協働本部が両輪となって「地域総がかりで取り組む教育」を推進してまいります。

次に本市が目指す最終的な教育目標についてお答えします。

本市では、子供たち一人一人が将来にわたって幸せで満たされる、いわゆるウェルビーイングの向上に向けた教育活動に取り組んでいます。

そして、前例のない時代を生きる子供達の未来において、「志を持つ」ことを重視しています。具体的に申し上げますと、あらゆる場所で挑戦し続け、沼津を愛し、誇りを持ち、自分自身が関わって社会を変えていくというシビックプライドを持った「貴き志を持つ人づくり」を目指しております。

貴き志を持つ人を育成するには、確かな知性、豊かな心、健やかな体をバランスよく育て、個の資質を高めていくことが重要です。夢と志を持って可能性に挑戦するために必要な力を確実に育み、人間力を磨く教育を推進してまいります。

また、豊かで活力ある地域社会につなげるため、地域総がかりで生涯を通じた学びを促進し、地域に貢献できる人材の育成にも努めてまいります。

これらの人間力を磨く教育と地域総がかりで取り組む教育を柱に据えて、最終的な教育目標として「誇り高い沼津を創造する 貴き志を持つ人づくり」の実現に向けて着実に取り組んでまいります。

○議長（池田 来輝）

以上で一般質問は終了いたしました。

○議長（池田 来輝）

次に、日程第3、二十歳の一言を行います。

沼津市には豊かな自然や歴史、産業、文化など、多くの宝があふれています。沼津で過ごした私たちが考える沼津の宝について、質問者以外の議員から発言願います。

では、1番議員から順番に発言願います。

○1番議員（植松 幹太）

1番議員の植松 幹太です。

私が思う沼津の宝は、心地よい空気感です。

私は、沼津に帰省した際には必ず散歩をします。沼津のまちや狩野川沿い、千本浜を歩いていくと、不思議と心が安らぎ落ち着くのです。また、商店街やまちの店にも言葉には表せない魅力や温かさがたくさん詰まっています。

私は、この心地よい沼津の空気感が末永く続くことを願うとともに、沼津市民の一員として守っていきたいと考えています。

○2 番議員（前田 鮎里）

2 番議員の前田 鮎里です。

私にとっての沼津の宝は、自然です。

特に千本浜は、私にとってとても大切な沼津の宝だと考えています。

私の地域は千本浜に近く、学校の行事でもたくさん千本浜を利用させていただきました。空気がきれいですっきりした気分になることができ、日の出がよく見え、とてもおすすめのスポットです。

沼津は自然があふれているとてもすばらしいまちです。これから先、沼津を離れてしまいましたが、沼津の自然がどこよりも1 番きれいだと考えています。自分自身ができる最善を尽くし、この自然をこれからも守っていきたいと考えています。

○6 番議員（齋藤 亜弓）

6 番議員の齋藤 亜弓です。

私にとっての沼津の宝は、門池です。

門池公園は、豊かな自然であふれていて、春に咲く桜をはじめ、季節感を感じられる場所でもあります。今、私は沼津から遠く離れたところで過ごしています。小さい頃から何度も訪れた門池公園ですが、沼津に戻ってきたときに改めて訪れてみると、とても素敵なおとこだなと感じることができます。大好きな場所です。

門池を始めとした沼津が持つ豊かな自然を、これからも守っていきたいと思っています。

○9 番議員（植松 湧太郎）

9 番議員の植松 湧太郎です。

私にとっての沼津の宝は、穏やかな生活を送れる環境です。

穏やかな気候や豊かな自然に代表された沼津の環境が、私たち沼津市民に与える好影響に私が気づいたのは、進学してこのまちを出た後でした。

富士山や愛鷹山などの雄大な山々、駿河湾という広大な海に囲まれ、常に身の周りに自然を感じ、活気のある輝く沼津のまちで暮らすことのすばらしさは、まさに私が沼津の宝として伝えるべきものだと思います。

○10 番議員（高橋 美帆）

10 番議員の高橋 美帆です。

私にとっての沼津の宝は、温かい人間性です。

私は現在県外に住んでいますが、沼津に帰省すると、「お帰り」と温かく迎えてくださる方や、「いつも頑張っているね」と声を掛けてくださる方が大勢います。私はそのような方たちからの声を聞くと、地元に戻ってきたなととても安心します。

このようなありがたい環境は当たり前ではないので、これからも地元の方たちの交流を大切にしていきたいです。

○11 番議員（田村 健豊）

11 番議員の田村 健豊です。

私にとっての沼津の宝は、駿河湾です。

先日、8年前の自分から手紙を受け取り、読み返す機会がありました。その時の将来の夢は、漁師になることでした。当時はそう思うくらい、釣りをして楽しんだり、海鮮料理を食べたり、駿河湾で楽しんでいました。

沼津の誇る駿河湾をこれからも大切にしていきたいです。

○12 番議員（寺尾 航士郎）

12 番議員の寺尾 航士郎です。

私にとっての沼津の宝は大平の石仏です。

学校に行くときも石仏に会い、友人の家に遊びに行くときも石仏に会い、石仏に囲まれ、石仏とともに暮らしてきました。まさに分け入っても、分け入っても石仏です。しかし、進学に伴い、大平を出るとそれが普通ではないことに気づきました。深い歴史の中で、田んぼや自然に囲まれ、のどかに暮らせる大平こそその宝だということに気づきました。

今日も石仏に見守られながら、二十歳の集いに出席することができました。今後も、人と石仏が穏やかに時を刻みながら、後世に歴史が継承されていけばと思います。石仏最高、大平最高、沼津最高。

○21 番議員（原科 悠）

21 番議員の原科 悠です。

私が考える沼津の宝は、愛鷹山です。

愛鷹山は、豊かな自然に満ちあふれています。山の麓には茶畑があり、沼津の特産品であるお茶に結びつく美しい緑が広がっています。さらに、愛鷹山から見る景色は、南の方を見れば私たちの大好きな沼津のまちと駿河湾を、北の方を見れば日本の宝である富士山を、おそらく 1 番良い場所で見るができると考えています。

沼津を愛する私たちが、人に自慢したくなるような場所が愛鷹山だと考えています。

○20 番議員（伊海 祈）

20 番議員の伊海 祈です。

沼津市には、豊かな自然や文化、長い歴史など様々な魅力があり、どれもすばらしい宝だと思います。

ます。そんな中、私が考える沼津の宝は、そのような沼津市をつくってきた人々、そして今、守っている人々です。

私は、一昨年の4月からこの沼津市役所に勤めています。ここで働く方々を間近で目にし、一緒に働いていくことで、これまで当たり前だと思っていたことは、市のために働いている人々のおかげで成り立っていたのだと改めて実感し、感謝しております。今の魅力あふれる沼津ができたのは、市職員や議会関係者、各企業や団体の皆様、そのほか多くの方々の力であり、それこそがこの沼津の宝であると感じます。

これからも、今ある沼津の魅力を守り、さらに今以上の多くの宝ができていくことを願うとともに、私自身もそんな沼津市をつくっていく1人として力になりたいと感じます。

○19 番議員（矢尾 夏大）

19 番議員の矢尾 夏大です。

私にとっての沼津の宝とは、狩野川です。

沼津市の中心を流れる狩野川は、四季折々の魅力にあふれ、私の思い出がたくさん詰まっています。冬になると、年の始まりを感じさせる伝統行事であるどんど焼きが川沿いで行われ、春になると川の上空を彩る色とりどりの鯉のぼりが風になびく光景が一面に広がります。

そして、夏と言えば、友達と心待ちにしていた沼津夏まつり・狩野川花火大会です。川のほとりから眺めた花火の輝きは、青春のひとときを明るく照らしてくれました。秋には毎日犬の散歩をしながら、水面に移る美しい夕日に癒されていた日々を思い出します。

また、幼い頃には、狩野川をゆったり進む渡し船に乗った記憶があります。そのときに感じたわくわくした気持ちは今でも心に残っています。また、狩野川の河口に位置する沼津港では、新鮮な海鮮料理を楽しむことができ、その味はまさに絶品です。

振り返ってみると、私の幼少期から青春時代に至るまで、いつも私のすぐそばには狩野川がありました。狩野川は私にとって、ただの川ではありません。たくさん思い出の詰まった、まさに沼津の宝そのものです。

○18 番議員（神戸 志織）

18 番議員の神戸 志織です。

私にとっての沼津の宝は、豊かな自然と支えてくれる人がいるという環境です。

沼津市には青空にそびえる雄大な富士山、愛鷹山の裾を包む緑の美しさ、千本松原を抜ける潮風、そして門池公園の穏やかな水面に移る四季の移ろいなど、豊かな自然に囲まれています。

卒業後、私は沼津を離れ、現在は都会で生活をしていますが、帰省をするたびに、沼津市の自然は四季折々の表情を見せ、いつ帰っても新鮮な感動を与えてくれます。これらの豊かな自然に触れるたび、澄み切った空気や静寂の中に包まれ、都会の喧騒を忘れられる特別な時間を過ごしています。沼津の自然はただ美しいだけでなく、訪れる人々の心の内面に入る力があると私は実感しています。

また、帰省する際には家族だけでなく、友人や地域の皆様が引き続き温かく迎えてくださる環境

にも、心から感謝しています。この家族や友人、地域の皆様の存在こそが、沼津を帰る場所として特別なものになっています。

私にとっての沼津の宝である、この豊かな自然と温かい人々のつながりが守り続けられていくことを願っています。

○16 番議員（堀池 うらら）

16 番議員の堀池 うららです。

私にとっての沼津の宝とは、狩野川とそこに住まう地域の人々です。

私は高校生の頃、部活動でボート競技をしており、3年間、四季折々の狩野川とともに過ごしてまいりました。季節や時間によって姿を変えていく、狩野川の美しさ、時には過酷さを肌で感じるとともに、そこで練習する私たちに、我入道の渡し船や河岸から手を振ってくださる方々、応援してくださる方々が非常に多く、地域の方々の温かさを感じておりました。

またそれ以外にも、沼津夏まつりでは、毎年見事な花火がたくさん打ち上がったり、こいのぼりフェスティバルでは、幾つものこいのぼりが空を舞っていたりします。

そのように、豊かな自然でありながら、地域の人々が集まるという大きな役割を持つ狩野川を私は宝だと考えました。

○15 番議員（川口 諒）

15 番議員の川口 諒です。

私が考える沼津の宝とは、人の優しさ、温もりです。

私は小中学校のとき、少しいじめに遭っており、多くの悩みを抱えていましたが、友達や仲間の支えがあって、今の人生があります。

今もいじめ問題を抱えているたくさんの子供がいると思います。その子供が、少しでも明るく楽しく過ごせるような沼津ができることを願って、人の優しさ、温もりを沼津の宝とさせていただきます。

○4 番議員（佐藤 泰政）

4 番議員の佐藤 泰政です。

私が考える沼津の宝は、やはり沼津夏まつりです。

狩野川から打ち上げられる花火は、沼津の夏の風物詩でもあり、誰もが楽しみにしている沼津の宝であると考えます。歩行者天国に並ぶ屋台やしやぎりの音は、沼津で生まれ、沼津で育った私にとっては、永久に続いてほしい伝統、沼津の宝であります。私は、どんなきれいな花火より沼津で見るあの花火が1番だと感じています。

○14 番議員（相磯 凜太郎）

14 番議員の相磯 凜太郎です。

私にとっての沼津の宝は、大瀬まつりです。

中学生のとき、私の主張大会で大瀬まつりについての作文を発表させていただきました。沼津から遠く離れ、札幌で生活する今も、4月4日になると家族から送られてくる大瀬まつりの写真を見て、地元の美しい景色や活気ある地域の方々の様子、白塗りで踊った思い出がよみがえります。コロナ禍で存続が危ぶまれたと聞きましたが、有志による活動もあり、新しい世代に誇らしい伝統文化が引き継がれていることをとてもうれしく思います。

○議長（池田 来輝）

最後に、議長の私、池田 来輝から一言発言します。

私の考える沼津の宝は、自然との距離感です。

主要都市へのアクセスもよく、アウトドアでの活動が気軽にできるなど、他地域よりポテンシャルがあると私は感じています。観光においても、沼津は山、海、川などの自然を、思い立ったらすぐに全て楽しむことができます。私自身、地元だからと特段気にしていなかった観光施設やアクティビティを楽しめたことが印象深いです。

また、生涯学習課でのボランティア活動における小学生との活動を通して、沼津にはまだまだ遊べる場所、知らないことがあるのだと20年住んでもなお感じることもありました。地元だからといって焦点を当ててこなかった宝をこれからも探求し、自身で感じ、これからの人生を歩んでいこうと思います。

○議長（池田 来輝）

以上で、二十歳の一言は終了いたしました。

○議長（池田 来輝）

以上で、本二十歳の議会の日程は終了いたしました。

○議長（池田 来輝）

ここで市長から発言を求められておりますので、許可いたします。

○市長（頼重 秀一）

本日は、二十歳の議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

1月4日には戸田地区で、本日は市内16校区で「二十歳の集い」が開催されました。久しぶりに同級生の皆様方やお世話になった恩師の先生方、地域の皆様方と再会され、旧交を温められたことと思います。そのような貴重な時間を割き、本議会にご出席いただきましたこと、改めて心から感謝申し上げます。

先ほど、3人の二十歳の議員の皆様からご質問をいただきました。1問目は「市民スポーツの推進について」、2問目は「沼津市のUターン就業支援について」、3問目は「学校と地域の繋がりに

ついて」ということでしたが、いずれの質問も実に内容が濃く、よく勉強されているなと感心いたしました。日々の生活における様々な経験を通じ、皆様方が疑問に思われたことについて、沼津市ではどのようなになっているのか知りたい、そのような思いがひしひしと伝わったところであり、本当に素晴らしい質問であったと、心から敬意を表すところでございます。

質問者以外の二十歳の議員の皆様方からは、「わたしにとっての沼津の宝」についてご披露いただきました。沼津の優れた自然環境や人、さらには沼津夏まつりや大瀬まつりなどの各種イベント等、皆様方からの一つ一つの発言の中に本市への思いが込められておりました。また、自らの思いを伝えるその姿は大変立派であり、皆様方も本市にとっての宝であると強く感じたところであります。

本会議という場合は、市議会議員の皆様と、我々当局側が様々な議論を行い、沼津市の今後を見据え、政策を決定していく場です。二十歳の議員の皆様方は、二十歳の議会に参加されたことにより、どのようにまちづくりが進められているのか、その一部を本日体験されたことと思います。どうかこの体験を糧として、今後の本市のまちづくりに大いに関わっていただきたいと考えております。

本日は、市議会議員の皆様方も傍聴席からご覧になられていました。市議会議員の皆様方も、私と同じように、二十歳になられた皆様方の素晴らしさを感じられたことと思います。

議長を務められた池田さんも緊張されたとは思いますが、しっかりと役目を果たされていました。本当に心から感謝いたします。

さて、皆様方のご記憶にも新しいと思いますが、本市は一昨年、市制施行 100 周年を迎え、新たな方向に向かって歩を進める段階となりました。今後、本市がさらに発展していくためには、皆様方のフレッシュで純粋な力強い思いが極めて重要です。次の 100 年に向けて、本市をより素晴らしいまちにするためにも、皆様方にはこれからのまちづくりに積極的に関わっていただきたいと考えております。

今後、皆様が進まれる道には、多くの楽しいことや嬉しいこと、そして艱難辛苦な状況など、様々な場面があると思います。辛いときには、二十歳の集いで再会した仲間や恩師、そしてご家族の存在を思い起こしてください。また、本日はよい機会ですので、これまでお世話になったご家族をはじめとしたご関係者の皆様に感謝の言葉をお伝えいただけたら、大変嬉しく思います。

皆様方であれば、これからの沼津市を託していけると信じておりますので、自信を持って大きく羽ばたいていただきたいと思います。本日、ご出席されました二十歳の議員の皆様方のますますのご健勝・ご活躍を心から祈念いたしまして、結びの挨拶に代えさせていただきます。

皆さん、これからも頑張ってください。

○議長（池田 来輝）

これをもって、令和 7 年第 27 回沼津市二十歳の議会を閉会いたします。

ご苦労さまでした。



←当日の様子はこちらから
(市公式 YouTube 二十歳の議会)

令和 7 年第 27 回
沼津市二十歳の議会会議録

令和 7 年 2 月発行

編集・発行 沼 津 市
沼津市教育委員会